令和3年度 園だより

こうきた 2月号

杉並区立高円寺北子供園

みんなのしあわせを創る教育

園長 須田なぎさ

杉並区教育委員会では、平成24年に「杉並区教育ビジョン2012」を策定し、「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」の実現を目指してきました。このビジョンが令和3年（2021年）度に終期を迎え、区の新たな基本構想が策定されるのを受け、新たに「杉並区教育ビジョン2022」が策定され、私たちが大切にしたい教育として『みんなのしあわせを創る杉並の教育』を揚げました。

「幸福度ランキング」によると、日本は世界149か国の中62位（2021年）という結果です。そのランキングで、ここ数年連続１位となっているのは、北欧のフィンランドです。フィンランド人は、仕事も家庭も趣味も勉強もなんにでも貪欲である。睡眠はしっかりとり、ワークライフバランス世界１位（残業無し、有給取得率100％）。肩書や学歴、年齢、性別にはこだわらず、選択を制限するものがなく、やりたいことはやるが、ゆとりがある国であることが、幸福度1位の理由とされています。

制度や国民性や風土など、国それぞれなので、日本がフィンランドの真似をすれば、幸福度があがるということではないとは思います。しかし、理由の中に、ヒントになるワードは隠されているように感じます。どうしたら「みんなのしあわせを創る」ことができるのでしょうか。

新しいビジョンの中には、大切にしたい教育の根本として、『共に学び合い、教え合い、関わり合って、新たな価値を創り出していくためのもので、誰もが教育の当事者となるうえで、共に尊重し、大切にしたいこと』が三つ掲げられています。『①学び合い、信頼をつくり、共に生きる　②ちがいを認め合い、自分らしく生きる　③誰もが社会の創り手として生きる』です。その中に、『学ぶことへのわくわくした気持ちや楽しさ、探求心を大切にして深めた学びは、学び合い、教え合うことの出発点にもなる。』と記されています。

4歳児の保育室へ行くと、発見したことや楽しいことを「みて～」と、嬉しそうに伝えようとしています。5歳児になると、遊びの中で「〇〇ちゃんのいいね」「どうやったの？」「どうしたらいいかな」「ここは～するといいよ」と一緒に考え、幼児同士の中で教え合う姿も多くなります。幼児は幼児なりに、楽しいことや「そうか！」と納得して獲得したことを、周囲の仲間や大人に伝えようとします。こうした『対等な関係の中で対話的なかかわりを持てることが大切』であり、『ちがいを認め合う』ことで、尊重し合い支え合う気持ちを育むことに向かっていくと考えます。

このように、子供園の遊びや生活の中で大切にしていることが、杉並の教育が目指す「みんなのしあわせを創る」ことにつながるということを改めて認識しました。そして、『誰もが教育の当事者である』という視点から、園・家庭・地域が共に手をとり合い、役割を果たすことで、「みんなのしあわせ」を創り出していくことができると考えます。これからも、未来を担う子どもたちのために、子供園の教育にご理解ご支援いただけますよう、よろしくお願いいたします。

参考文献：
杉並区教育ビジョン2022（杉並区教育委員会ホームページよりご覧いただけます）
堀内都喜子著「フィンランド人はなぜ午後4時に仕事が終わるのか」ポプラ新書

≪２月の保育≫

★年少組

　自分で選ぶ遊びの時間では、お寿司屋さんやキャンプごっこなど自分たちで作った物を遊びの中で使ったり、中型積み木や衝立を使っては車やバイク、家を作って遊ぶことを楽しんでいます。また、気の合う友達を誘って一緒に遊ぶ姿や、友達のしていることに興味をもって、遊びに入れてもらおうとする姿が増えてきました。友達との遊びの中で、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして一緒に過ごす楽しさを感じられるようにしていきます。

　今月の誕生会からは自分たちで司会をしたり、音楽会でみんなと一緒に歌ったり演奏したりする楽しさを味わったり、新入園児へのプレゼント作りやお別れ会の準備などを通して、大きくなった自分を感じられるようにし、学級のみんなでする活動に、自分なりの目当てをもち、一人一人が自分の力を出せるようにしていきます。

★年長組

　子供園での生活も残りわずかとなり、２年間のまとめの時期に入ってきました。これまでの経験を活かして、鬼の面や雛人形、修了製作の品などを丁寧に作っていきます。また、これまでにじ組の仕事として取り組んできた当番や誕生会の司会などをたんぽぽ組に引き継いでいきます。

　また、音楽会はにじ組で取り組む大切な行事です。友達と声をそろえて歌ったり、様々な楽器の音を重ねて表現したりする楽しさを感じられるようにしていきます。音楽会の取り組みを通して、友達と互いの良さを認め合いながら、つながりを感じ、学級のみんなで一つのことを成し遂げる達成感を十分に味わえるようにしていきます。

　にじ組の子どもたちは、３学期になって毎日の生活の中で、友達同士で声を掛け合い、困っている時には、助け合おうとすることが増えてきました。保育者の助けがなくても自分たちで解決しようとする姿を十分に認め、「友達と一緒だから、自分たちでできた！」と自信をもって生活を進められるようにしていきます。

≪園からの連絡≫

★肌着の着用で体温調節をしましょう。

今年の冬は、朝夕の気温が下がっていることや、コロナ感染症を防ぐために室内換気をよくしていることから、子どもたちの体温調整のために、肌に優しい『綿の肌着』の着用をお勧めします。洋服を直接着るのではなく、肌着を１枚着ていることで、保温性が高まる上に、活発に遊び汗ばんだ時も、肌着が汗を吸い取り、急な冷えから子どもたちの体を守ってくれます。フリースや厚手の服を一枚着せて済ませるのではなく、肌着の重ね着をして衣服の調節をしましょう。

≪子育て支援特集≫

非認知能力って　なぁに!?

みなさんは“非認知能力”という言葉を聞いたことがありますか？「幼児期に非認知能力を身につけておくと、大人になってからの幸せな生活や経済的な安定につながる」というアメリカでの研究があり、非認知能力という言葉を広めたきっかけになっています。（ジェームズ・ヘックマン「ペリー就学プロジェクト」）

非認知能力には、自分に関する力（自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信など）と、人とかかわる力（協調性、共感する力、思いやり、社交性、道徳性など）があると言われています。乳幼児期にこの土台を作っておくことで、人生を楽しむための価値観が身につくとともに、小学校以降の学習につながるとも言われています。

非認知能力は、子ども自身が夢中になって遊ぶ中で、試行錯誤しながら身につけていく力です。ひらがなが読める、足し算ができるなどの、達成度が明確なものではなく、子どもが面白がって取り組めたという体験が大切です。そして、子どもが失敗を恐れずに向かっていけるように、周りの大人が、先回りをせずじっくり子どものすることを見守っていくことで育まれていきます。

また、非認知能力を身につけていくコツとして「とにかくたくさん遊ぶ！」「自分で選んで決める経験を大切にする」「できたことを一緒に喜ぶ」「小さな失敗を自分で乗り越えられるように見守る」「指示、命令ではない言い方をする」「他の子と比較しない」などはご家庭での子育ての参考になるのではないでしょうか。

今、身につけておきたい非認知能力を、園とご家庭とで協力して育んでいくことで、子どもたちに豊かな未来を保障していきたいですね。　　副園長　川副　園美

参考文献：古市憲寿作　『保育園義務教育化』（小学館）　NHK すくすく子育て　ホームページ